

令和6年度 静岡県立看護専門学校 学校関係者評価結果報告書

1 評価概要

- 対象期間  
令和6年度(令和6年4月1日～令和7年3月31日)
- 評価方法

<ul style="list-style-type: none"> <li>・9大項目、53小項目について、4段階評価で職員アンケート調査を実施(実施時期:令和7年3月、評価者:本校職員23人)</li> <li>・令和6年度の取組状況、上記職員アンケート結果等を元に、学校自己評価を学校運営会議で実施</li> <li>・学校自己評価に対し、学校関係者評価委員による評価を実施(令和7年8月19日(火)16:00～)</li> </ul>
---

2 評価結果

評価大項目	令和6年度の取組	令和6年度職員アンケート				令和6年度学校自己評価	学校関係者評価
		R4 評点	R5 評点	R6 評点	分析	評価・今後の取組(課題・改善策等)	
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は、県民の医療の担い手として活躍できる質の高い看護師及び助産師を育成する責務のもと、主体的に学習する人のための環境整備、生命の尊厳と人間を尊重し、高い倫理観や豊かな感性を持って看護、助産を实践する人を育てることを教育理念に掲げ、そうした人づくりの上に、専門的知識、技術、態度及び幅広い見識を持つ心豊かな専門職業人を育成することを教育目的として看護教育に取り組んだ。</li> <li>・教育理念に沿った新カリキュラムによる教育が、全学科で完成年を迎えた。少子高齢化社会の進展、疾病構造の変化、医療技術の発展、地域包括ケアシステムの構築等、より複雑で多様化する現代社会のあり方を理解するとともに、ICT活用のための基礎的能力、臨床判断能力を身につける基礎教育を実践した。</li> <li>・新入学生に対しては、入学時のガイダンスでスケジュールを調整し時間を確保して、教育理念や卒業生像について説明した。</li> <li>・保護者に対しては、新入学時の保護者会・後援会総会の場にて説明し、また、カリキュラム上の取り組みについても学科ごと保護者に説明した。</li> <li>・条例施行規則の「進級の認定」に基づき、学則・規程・規程細則に「進級要件」「既修得単位の認定」「臨床実習科目の履修要件」を追記・修正した。また、学生便覧に掲載したこと、学生自身が確認できるようになった。</li> </ul>	2.9	3.1	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評点は3.2点であり、概ね適切であった。</li> <li>・(1)「学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)」の評点は昨年度と比較すると0.3ポイント高く、9割以上「適切」又は「やや適切」と評価した。</li> <li>・(4)「学校の理念・目的・育成人材像などが学生・保護者等に周知されているか」の評点は昨年度と比較すると0.4ポイント高く、約7割が「適切」又は「やや適切」と評価した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校創立以来、掲げている教育理念の下、看護教育を実施した。</li> <li>・年度始めに、学科ごと教員間で学校の教育理念、教育目的、教育目標、卒業生像について共通理解をした上で学生・保護者に関わった。</li> <li>・保護者への「本校の教育理念、教育目的、教育目標」の周知は、入学前オリエンテーションや後援会等の場で説明、保護者あてに定期的に送付する「学校だより」に掲載し発信した。</li> <li>・学生アンケートでは「学校の教育理念・教育目的を知っている」の評点は2.8と昨年度より0.2ポイント高く、「知っている」「ほぼ知っている」の評価が約6割に増加した。この取組は今後も継続して取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(杉山委員)</li> <li>・学校便りはきれいに作ってある。ホームページに掲載し、定期的に更新するとよいと思う。</li> <li>・「(4)学校の理念・目的・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」というところが評価点がかかなり上がっている(0.4点)ところはかなり評価できる内容であり、努力していることがわかるが、学生アンケートでは、もう少し頑張ってもらいたいという結果である。</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念、教育目的に沿って、計画的な業務執行に努めた。学生の進退のほか、学生の生活環境などに関することは運営会議等で協議して適切な学校運営に努めた。</li> <li>・また、「教育DX推進」として教育目標に掲げる「ICT活用能力の育成」と併せて、「基礎的臨床判断能力の育成」を強化する教育活動を行った。具体的には、ICT関連の教育に加え、「学習管理システム」と「高機能シミュレーター」等を導入した。</li> <li>・また、ICT環境の整備に加え、より効果的な運用を展開するため、教育DX推進委員会を中心に各学科ごと授業内容にデブリーフィング&amp;データ管理システム(ふりかえ朗)や高機能シミュレーター(SCENARIO)等の学習教材を活用した教育DXを推進した。</li> <li>・年度末には、学校評価に関して学生アンケートを行い、その結果を全教員で共有した。また、学生アンケート結果を受け、後援会による学習環境の更なる改善も計画している。</li> </ul>	2.7	2.9	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評点は3.0点であり、概ね適切であった。</li> <li>・(9)「人事、給与、教務及び財務に関する規程等は整備されているか」の評点は昨年度より0.3ポイント低かった。約8割が「適切」又は「やや適切」と評価した。</li> <li>・(10)「病院等に対するコンプライアンス体制が整備されているか」の評点は、昨年度と比較すると0.2ポイント高く、9割以上が「適切」または「やや適切」と評価した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営については、教育理念・教育目的に基づき、計画的・効率的に業務を進め、概ね適切に事業を遂行することができた。</li> <li>・今年度は個々の授業に取り入れる程度に留まったが、看護教育におけるICT化は部分的な授業の変革ではなく、横断的な教育・職場環境の改善を目指したい。</li> <li>・また、ICT機器や高機能シミュレーター等を使用することにより、看護教員の教材作成に要する超過勤務や負担の軽減、体験の少ない学生にとって多くの疑似体験ができる教育の実施等、効果的かつ効率的な運用が行えるよう取組を進める。</li> <li>・学校自己評価については、集計結果について教員相互間で認識や意見を共有し、評価に対する意識の足並みを揃えることが必要であるため、引き続き意見交換の時間と場を確保していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(平賀委員長)</li> <li>・年度当初の退職、病欠等によって人員不足の中で対応してきたことは理解できるが、改善すべき点がある。人事の問題だがそのまま見過ごすわけにはいかない。努力目標にしておかないといけないと思う。</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル技術を積極的に活用し、効率的な学習環境と実践的なスキルアップの機会を創出するため、教育DX推進委員会を立ち上げた。ICT化推進事業最終年の今年度は、「高機能シミュレーションモデル(SCENARIO・ふりかえ朗、分娩アドバンスド)」「電子黒板」を導入した。今年度の目標は、①学習環境を整える。②先行導入した「学習管理システム(ロイロノート)」と「電子カルテシステム(メディアアイ)」を活用し、実践的なスキルアップの機会を創出する。の2点とした。</li> <li>・教員の指導力育成など資質向上のために、全教員に研修を案内し積極的な研修参加を呼びかけた。</li> <li>・教員のキャリア開発支援として「看護教員の教育実践能力育成ガイドライン」に基づき、看護教育の経験年数別成長段階を「レベル1」から「レベル4」まで設定した。各教員は成長段階別到達目標を年間で設定し、新任者は年3回、新任者以外は年2回、副校長及び教務課長とキャリア面談を行った。</li> <li>・自己啓発等休業制度を利用し、教員1人が2年間の休職を取得したが、学校養成指定規則に定める専任教員数は確保できた。</li> <li>・創立50周年記念式典を開催し、在校生を含め多くの医療看護施設関係者等を招き、講演会やパネルディスカッションを実施した。</li> </ul>	2.8	2.8	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評点は3.0点であり、概ね適切であった。</li> <li>・(18)「病院等における実践的な職業教育が体系的に位置づけはあるか」の評点は昨年度と比較すると0.3ポイント高く、9割以上が「適切」または「やや適切」と評価していた。</li> <li>・(24)「病院等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか」の評点は2.7、(25)「専門領域等における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員を確保するマネジメントが行われているか」の評点は2.6だったが、いずれも昨年度より0.4ポイント高かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援システムの導入により、適切なタイミングで授業資料の電子配付や電子データでの提出物の回収が可能となり、グループワーク発表時の成果物の見える化ができ、学生が情報を手軽に共有しながら学ぶことができた。</li> <li>・「高機能シミュレーションモデル」などの機器導入後、機器・システムの使用ルールを設定し、看護技術のデモンストレーションとシミュレーションのシナリオに沿った演習、デブリーフィング等により、学生への学習支援の増強と教員の教授法の強化という点で効果があった。「電子カルテシステム(メディアアイ)」は実習前の学生に使用させることで、臨床実習現場での電子カルテに対する戸惑いを軽減することができた。「学習管理システム(ロイロノート)」は、学生の発表の視点が広がり、自分から積極的に質問できない学生から質問されるようになった。また、外部講師の資料を適切なタイミングで電子配付することが可能となった。課題の提出期限もシステムを使い学生に伝えられるため課題提示・提出の管理が容易になり、教員の担任業務の軽減につながった。</li> <li>・教員が今年度参加した研修会は22、参加者は延べ83人だった。研修参加が教員本人からの申告制であり、業務との兼ね合いで希望に添った受講が困難な教員もいるため、成長段階に応じた研修・学会を受講できる工夫した仕組みを検討して行く。</li> <li>・「看護教員の教育実践能力育成ガイドライン」の運用を開始し、教員自身が自己評価することで、「今自分に何が求められているのか？」が明確になった。今後も、看護教員としての自覚や責任、資質及び能力の向上を目指していく。</li> <li>・学校養成所指定規則に定める専任教員数は確保しているものの、内1人は会計年度任用職員のため常勤の教員と同様の業務を担うことができず、教員全体での疲弊感強い。今後も正規教員の確保に努めていく。</li> <li>・創立50周年記念式典における講演会とパネルディスカッションにおいて、学生が講師らの体験を聞き、「人と人の縁・絆」について学び考える機会とすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(平賀委員長)</li> <li>・自己啓発等休業を取得した教員がいるが、前向きで大変いいのではないかと。学生の質を上げるだけでなく、教員の質も上げないと、学生もレベルが上がってこない。</li> </ul>

評価大項目	令和6年度の取組	令和6年度職員アンケート			令和6年度学校自己評価		学校関係者評価
		R4 評点	R5 評点	R6 評点	分析	評価・今後の取組（課題・改善策等）	
(4) 学習 成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>最高学年では、学生への継続した個別支援の結果、希望する病院へ就職できた。</li> <li>看護師、助産師国家資格取得のため、低学年から国家試験を意識した学力強化を行い、最高学年では模試での成績不良者に対して不得意分野の対策を強化するなど、在学期間を通して全員合格を目指して学力向上に取り組んだ。その結果、令和6年度（令和7年実施）の国家試験合格率は、看護師・助産師ともに100%であった。</li> <li>退学者は、令和6年度は6人で、前年度より減少した。退学理由は、進路変更3人、成績不良2人、体調不良1人であった。</li> <li>本校卒業生より、自分の実践している看護を学生へ講義したいと要望があり講義を実施した。</li> </ul>	2.7	2.8	2.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>評点は2.9点であり、概ね適切であった。</li> <li>(31)「卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか」の評点は2.5だったが、昨年度より0.3ポイント高く、約5割が“適切”又は“やや適切”と評価した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国家資格の取得に向けて、個々の学生に応じた学習対策を行った。引き続き学生全員が合格できるよう、学習状況を分析しながら学生の学習支援を丁寧に支援していく。</li> <li>退学者が前年度より減少した。これは、担任教員が担当するクラスの全学生一人ずつと定期的に面談を行い、学生の困り事、身体の調子に至るまで丁寧に傾聴した結果である。しかし、単位未修得の科目がありながら進級したり、臨地実習等が不合格となり留年する学生もいるため、学習に困難のある学生への支援が引き続き必要である。</li> <li>卒業生は看護師・助産師として、希望どおりの就職ができ、それぞれの職場で活躍している。本校の役割である「地域で活躍する人材養成」という点において成果を出すことができた。</li> <li>DMA Tで活躍している卒業生を外部講師として招いたことは、学生の意識のなかへ先輩が社会的な活躍をしている姿を印象付け、看護師の職域の幅や深さを認識することにも繋がった。また、卒業生にとっても先輩に対して講義した経験は、今後のキャリア形成に大きく影響すると思われる。</li> </ul>	<p>(平賀委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国家試験合格率は100%だが、今のICT化教育を受けた学生ではなく、ICT化システム導入を反映した結果とは言えないことに留意すべき。</li> <li>去年から学生がiPadを持ち出したのを見て「大丈夫かな？」と非常に心配した。教師が話したメモをしっかりとすることはせず、画面を見てノートをとらない。iPadが必ずしも得意な学生ばかりではないし、それを3年間続けて合格率を維持できるか懸念がある。今年の合格率100%をもって今のシステムを過大評価できない。</li> <li>学習成果だってことは事実で間違いはない。評価できる。(杉山委員)</li> <li>DMA Tで活躍中の卒業生から申し出があって講義をしたというのは非常にいい。そういう方に講義していただくロールモデルになってくる。そういう方を開拓してほしいと思う。</li> <li>何より退学者が減ったのは、先生方の指導の賜だと思う。</li> </ul>
(5) 学生 支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の経済的負担を軽減する「高等教育修学支援新制度（授業料等減免、給付型奨学金の拡充）」や「専門実践教育訓練給付金制度」の対象校として、制度利用を希望する学生が支援を受けられる体制を維持した。また、静岡県や静岡県看護協会のほか、日本学生支援機構の奨学金制度や多数の病院からの奨学金貸与等を紹介する掲示物を学生ホールに掲示する等、学生への経済的な支援体制を維持している。</li> <li>就職支援としては、学生実習の受入れや講師を派遣していただいている協力医療施設を学校に招き、対面で就職説明会を開催したほか、就職支援業者による就職ガイダンスを実施した。エントリーシートへの記入方法の確認や就職面接の支援を行い、希望する医療施設への就職につなげた。</li> <li>課外活動については、放課後の看護技術練習の指導、図書室の開放時間の平常化、体育祭や学校祭の委員会活動の支援を行った。</li> <li>高校が実施する進路説明会等には、担当教員のスケジュール等を調整し積極的に参加することに努めた。</li> <li>成績不良者や生活態度に問題がある学生については、保護者と適時に連絡をとり、家庭内の事情等にも配慮しつつ、家庭と学校で連携した対応ができた。</li> </ul>	2.7	2.8	3.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>評点は3.1点であり、概ね適切であった。</li> <li>(35)「学生の健康管理を担う組織体制はあるか」の評点は昨年度より0.5ポイント高く、9割以上“適切”又は“やや適切”と評価した。</li> <li>(40)「高校等との連携による職業教育の取組が行われているか」の評点は0.7ポイント高かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の就職支援として、対面での就職相談会を開催した。実習受入病院や外部講師の所属施設のうち38施設に参加いただき、看護学科の学生101人が参加した。実施後アンケートでは、学生から「関心のある病院と話ができて良かった。」「希望先の病院について別の視点から見ることができた。」「様々な病院の特色、看護体制、新人教育体制、福利厚生を知り就職を決める際の参考となった。」など、自分自身の就職を意識しながら話を聞くことができた。また、学生は就職に必要な知見を広げ、就職活動に役立つノウハウを得る機会になった。医療施設においては、「学生の礼儀正しさと積極性」が高評価だった。</li> <li>実習時とは異なる学生の普段の様子を見る機会となったように、学生・医療施設の双方にとって有意義な就職相談会であった。</li> <li>高校等の進路説明会への参加は、大幅に増加(R5:16施設→R6:36施設、R5:209人→R6:372人)した。また、教員から高校生や保護者等に向けて本校や看護師という職業に関する情報を提供するとともに、高校生等から看護学校に対する関心事やニーズ等の情報を収集することができた。</li> <li>卒業生との連携支援について、役員選出・活動内容等の同窓会会則を見直すとともに、令和8年度以降の同窓会活動内容に「卒業後2年目の卒業生に学生祭の招待状を送り、交流会場を設け交流を図る。」とし、卒業生のフォローアップに努めていくとした。</li> </ul>	<p>(平賀委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>概ね評価が上がっている。(上藤委員)</li> <li>学生の礼儀正しさと積極性が高評価だということだが、1年生の最初の頃は「大丈夫かな?」「やる気ある?」と思うような学生がいたが、高評価ということで、先生方の御努力に感謝したい。(杉山委員)</li> <li>指導ガイドラインが昨年6月から改正され、「ハラスメント等に対する相談、カウンセリング等を行うものが定められ、当該者が必要な支援を受けられる体制の確保等の工夫を講じることが望ましい。」となっている。まずは外部のカウンセラーさんなどを充てて「なんでも相談していいよ」と受入れをしてあげた方が相談しやすい。外部の方のほうが学生が話しやすいと思うし、ガイドラインが改正されているので対応した、という形を作った方がいい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の間関係や学習などの悩み相談の機会として、カウンセラーを週1日、月4日間、2人交代制で配置し、相談予約がなくても待機して相談を受ける体制とした。教員の教育上の相談についても対応を依頼し、教員もアドバイスを受けながら学生の学習継続を支援した。</li> <li>体育祭は、これまでクラス対抗で行っていたが、学科・学年を超えた交流ができるようグループ対抗制とし支援した。</li> <li>2024年（令和6年）4月1日に改正障害者差別解消法が施行され、学校を含む全事業所は合理的配慮の提供が法律で義務化となった。このことから、「障がいのある学生の支援に関するガイドライン」の作成に取りかかった。既に運用している看護学校から運用状況を聴取し、全国的な取組などを調査し検討した。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>無断欠席や登校途中で体調不良になった学生には、担任教員から本人へ連絡し理由等を確認した。欠席が続く学生には、保護者と連絡を取り状況を説明したほか、学生の家庭内での生活状況についても共有し、場合により進退についての対策を講じた。保護者の中には、学校に全て任せるといった保護者もいるが、学生の現状と今後の進退などについて丁寧に説明しながら、学生への対応を保護者と連携して行った。</li> <li>本校の強みの一つが、資格取得のコースが異なる3学科があり、学生の経験値が様々であることで交流が生まれ出され知見が広がることである。学生祭は、地域住民や卒業生の来校、他学科同士の交流もあり、広く交流ができた。この交流は、臨地実習とは異なる場で、身につけたホスピタリティを体現する機会である。学生祭の動機づけを強化して、学生が成長できるように支援した。</li> <li>ハラスメント相談に学生から2件の相談申入れがあった。学生には副校長と教務課長が面談し状況を把握。校長、副校長、総務課長、教務課長の4人で対応を協議し、学生の生活環境が脅かされないよう対応した。当該学生からは学校の対応に感謝の言葉が述べられた。一方で「相談する窓口が学校関係者のため相談しにくい。」という声もあり、今後は相談窓口スクールカウンセラーを充てる等の検討も行っていく。</li> </ul>	<p>(平賀委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スクールカウンセラーが毎週来て、相談する学生が順調に増えており、非常に機能してると思う。</li> <li>アドバイスするカウンセラーの先生は職員の相談相手にもなりうる。先生方だって色んな悩みを持っているし、落ち込むことがあるし、鬱になってしまう人もいる。教員を対象にするのは悪くないと思う。</li> </ul>	

評価大項目	令和6年度の取組	令和6年度職員アンケート				令和6年度学校自己評価		学校関係者評価
		R4 評点	R5 評点	R6 評点	分析	評価・今後の取組（課題・改善策等）		
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨地実習があることから、校内ではマスク着用や手指消毒、臨地実習等に向けた感染対策は継続して行い、学校内における集団感染が発生しないように取り組んだ。</li> <li>校内施設等については、学校養成所指定規則等に従い適切に整備している。</li> <li>教育目標にある「ICT化推進」と「臨床判断の基礎的能力の育成」に向けて、整備した教育機器・教材（電子カルテ、教育支援システム、電子黒板、シミュレーター等）を活用して教育の充実を図った。</li> <li>災害発生時に備え、年2回の防災訓練を行い学生が主体的に考え、避難したり、大規模災害時に帰宅困難となった場合の対応を考える等、防災や安全確保の視点で訓練の充実を図った。また、日頃から地震への備えとして「防災用ヘルメット（折りたたみ式ヘルメット）」を最高学年以外の学生へ購入（令和7年2月）させ、安全対策を強化した。</li> </ul>	3.0	3.2	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>評点は3.2点であり、概ね適切であった。</li> <li>(43)「防災に対する体制は整備されているか」は9割以上“適切”又は“やや適切”と評価した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内の施設・設備については、適切に整備・維持し、不具合が生じた場合は直ぐに修繕等に対応した。また、今年度は創立50周年を記念して、同窓会より「学生の教育環境の充実を図って欲しい。」と、同窓会費での環境整備の申出をいただいた。新型コロナウイルスの感染防止により使用を禁止していた学生ホール改装等を図っていく。</li> <li>教育機器・教材等を活用した教育活動を実施した。教員自身が演示した看護技術動画を学生に配信して、看護技術のポイントを解説することで伝わり易くしたり、何度も再生して確認できるようにした。また、「デブリーフィングシステム（ふりかえ朗）」を活用し、学生自身が行う看護技術の実技状況を撮影し、教員に提出したものに教員がコメントして返すことをしており、視覚情報とタイムリーな指導が合わさって学習効果を引き上げた。学生アンケートの評価項目「教員が分かりやすく授業をしているか。」の評点は3.2とR5評点より0.4ポイント上がった。</li> <li>購入した防災用ヘルメットは、学生に常時携帯するよう呼びかけ、学内では防災用ヘルメットを机の中又は机の脇に吊すように学生へ指示し、いつでも使えるようにした。</li> <li>本校は清水町と災害時の妊婦避難場所として締結しており、福祉避難所としての役割があるが、教員の具体的な活動内容などははっきりしていない。改めて県の出先機関として、また、教育機関としての災害対策の確認が必要である。</li> </ul>	<p>(杉山委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉避難所として備品などを保管しておく必要があるのでは？清水町と早めに話しを詰めて置くべき物は置いてもらう必要がある。本校には専門の先生もいるので必要な物を町で準備してもらう方がいい。</li> </ul>	
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校のホームページを活用し、学生の学校生活や行事の様子などの情報配信を継続して実施している。</li> <li>受験者数の増加を期待して、看護1学科の推薦入学試験の基準を緩和した。</li> <li>県東部地区の高校18校の訪問を継続して実施し、看護師養成機関への進学希望者の状況を情報収集するとともに、本校をPRした。</li> <li>オープンキャンパスでは、対面方式とZoomによるリモート方式を併用し実施した。看護1・2学科と助産学科の全学科合同で実施した。オープンキャンパスに参加した入学希望者と、在校生や卒業生が意見交換する機会も提供した。また、入学希望者から連絡があれば個別の質問や相談に対応し、受験・入学に繋げた。</li> <li>応募者の少ない看護2学科の志願者増加に向けた取組としては、准看護師が就業している病院等への募集要項の送付や浜松市医師会が運営する県内唯一の准看護師養成学校での学校紹介などのPRのほか、県看護協会主催の進学希望の准看護師を対象とした研修会での学校紹介など、機会を捉えて募集活動を行った。</li> <li>実習指導者養成講習会では、看護師2年課程に関する講義を引き受け、学校案内を受講生に配布し、広く認知してもらえるよう情報発信した。</li> </ul>	3.0	3.3	3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>評点は3.6点であり、概ね適切であった。</li> <li>全ての評価項目において昨年度より高かった。</li> <li>(45)「学生募集活動において、資格取得等の教育成果は正確に伝えられているか」の項目は100%“適切”または“やや適切”と評価していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護1学科の推薦入学試験の基準緩和により、指定校推薦の受験者数は大幅に増加(R5:3人→R6:11人)、公募型推薦も微増(R5:19人→R6:23人)した。受験者数が減っている状況の中、入学者を一定数確保することができた。しかし、看護1学科の一般の受験者数は44人と過去最少人数だった。東部地区に東都大学（定員100名）や、順天堂大学（定員160名）のほか、他看護専門学校が6校あり、学生を奪い合う状況となっている。今後も、学生確保が難しい状況が続くと考えられる。</li> <li>学生募集のため高校訪問を行い、本校や看護職について高校の進路指導教員等に直接PRし、学生募集に向けた働き掛けを強化することができた。訪問対象校数や効果的な説明方法等を検討し、今後も継続していく。</li> <li>また、学校祭に来校した入学希望者に対し、本校の学生が個別に説明しながら校内を案内した。入学希望者の受験に繋げる重要な機会とすることができた。</li> <li>令和7年度より「県立看護専門学校魅力づくり検討会」が開催されることから、今後、本校の状況を確認しながら検討会に臨んでいく。</li> </ul>	<p>(上藤委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護師、助産師、保健師は、いかに社会貢献度の高い職業があつて、いかに社会が必要としている職業ということを見て。素晴らしい職業なんだということを見て。看護職ではない人間から言ってもいいという思いがある。そのような機会があれば是非、御一緒させていただきたい。</li> <li>本校は学生への面倒見の良さというのがある。（平賀委員長）</li> <li>この近辺では、東都大学や順天堂大学があるし、他に看護専門学校が6校ある競争の激しい立地であり、大学に学生をとられると思う。</li> <li>親御さんたちの気持ちは大学という名前に惹かれて第1志望が四年制大学。本校は専門学校の中だとかなり人気は高いとは思いますが、基本的な環境というか、地域行政とともにどう勝ち抜いていくか、残っていくかが基本的な命題だと思う。本校も学生募集とか評価が高いのでそれはいい方向に向かっているが、環境は依然として厳しい。</li> </ul> <p>(杉山委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学志向があるのは確かだが、公立の大学で受験率が低くなってきている。私立大学ではもっと切実な問題。オープンキャンパスを頻繁にやっている大学もある。外に向けてPRしていくのが大事。病院と組んで何か一般の方にPRしていくイベントをやってもいいと思う。合格率100%を達成するため手厚くフォローしている、というのをPRするのは非常に大事。先生方の評価点もとても高いので、非常に頑張っていると思う。</li> </ul>	
(8) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス遵守に向けた意見交換を学科会で実施し、学科内で起こりやすい危険性の高い事象を洗い出し、改善点や課題を明確にし共有した。</li> <li>個人情報の取扱いには慎重を期し、郵送時の郵便の宛名と送付物のチェックのほか、メール送信時のアドレスのチェックを複数の職員で行うなど、個人情報の漏洩や不正使用が起らないよう慎重に取り組んだ。</li> <li>インターネットを介した情報の漏洩防止と適正利用のため、「インターネット利用規程」を策定し、教職員に周知し遵守しながら業務にあたった。</li> </ul>	3.1	3.2	3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>評点は3.4点であり、概ね適切であった。</li> <li>全ての評価項目において昨年度より高かった。</li> <li>(49)「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」の評点は0.3ポイント高く、9割以上“適切”又は“やや適切”と評価した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学科で行ったコンプライアンス遵守に向けた意見交換では、学科内で起こりやすい危険性の高い事象の洗い出しを行い、認識共有を図る機会となった。</li> <li>教員は学生等の個人情報を取り扱っているが、学外への個人情報の漏洩は見られなかった。しかし、学生が教育用動画を無断で録画し、周辺の学生に断り無く動画を配信した事案が発生したため、「タブレット端末等に係る使用上の遵守事項」及び「インターネット利用規程」に則り、学生に対しタブレットの使用手法等の遵守を徹底した。</li> <li>学校運営の取組について自己評価を行い、学校関係者評価委員会において委員から多くの意見をいただいた。これら意見を踏まえ、改善に向けて取り組み、適切に対応することができた。</li> <li>引き続き、学校運営に関する諸課題の解決に向け、適切な学校運営に取り組んでいく。</li> </ul>	<p>(平賀委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度比でかなり評価は上がっている。法令の遵守というのは、最初から比較的本校は県立のせいを守られていたと思う。インターネット利用規程を作り、これが適切な対応がされていると思う。</li> <li>4点満点だとすると9割で3.6点なので4点満点にはなかなか達しない感じがする。教員の大勢の皆さんの総合的な評価だから、満点というところまでは少し距離があった感じがする。アドバイスを受けてしっかりと頑張りたい。</li> </ul> <p>(杉山委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>点数は確かに高いのでいいと思う。コンプライアンスや個人情報に関して研修会みたいな形で教員も研修会とか毎年のように情報を公開しながら研修会をやるといいと思う。</li> </ul>	

評価大項目	令和6年度の取組	令和6年度職員アンケート				令和6年度学校自己評価		学校関係者評価
		R4 評点	R5 評点	R6 評点	分析	評価・今後の取組（課題・改善策等）		
(9) 社会 貢献 、 地域 貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町の消防や県消防学校からの依頼により、本校の教員（助産師）が講師として分娩介助や新生児心肺蘇生法等の周産期研修を行った。</li> <li>また、県看護協会への協力として、実習指導者養成講習会、新人看護職員指導者講習会、准看護師進学支援交流会、東部地区支部事業等に教員を講師として派遣した。</li> <li>今年度より本格的に学生へボランティア活動を呼びかけた。台風の影響で中止になったものもあったが、学生がエントリーしたボランティア数：5（内、中止数2）、参加者人数：8人（中止により不参加となった人数12人）であった。</li> <li>創立50周年記念式典において講演会とパネルディスカッションを開催したところ、学生だけでなく地域住民の参加も見られた。</li> <li>助産学科学生により、地域住民に向け、更年期老年期女性に向けたプレコンセプションケアについて健康教育を実施した。</li> </ul>	2.4	2.3	2.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>評点は2.6点で、全大項目の中で最も低いが、昨年度より0.3ポイント高かった。</li> <li>全ての評価項目において昨年度より高かった。</li> <li>(52)「学生のボランティア活動を奨励、支援しているか」の評点は0.8ポイント高く、9割以上“適切”又は“やや適切”と評価した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町の消防や県消防学校への講師派遣、看護協会への協力は継続実施しており、地域貢献・社会貢献に繋がっている。</li> <li>ボランティア活動に参加した学生からは、看護実践に繋がる学びができた。病院以外の社会福祉施設が看護師が働く場所として視野を広げられた学生もおり、主体的にボランティア活動に取り組むことができた。今後は、学生がボランティア活動に興味関心が湧くように、ロイロノートを活用して情報提供し、学生が情報を得やすい環境を整えていく。</li> </ul>	<p>(杉山委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生が参加したボランティア活動を外向けにPRしてホームページに掲載すると、そういう学生がいるというPRになる。発表会は難しいかもしれないが、外に向けてアピールできれば非常にいいことだし是非進めて欲しい。</li> <li>本校で先生方の公開講座をやるのもいいし、講師の先生方に協力してもらってシンポジウム方式でやってもいいと思う。学生にとってはすごく力になっていくし、外に向けた地域貢献と自分達の力がついていくことになるので是非進めていただきたい。オープンキャンパスという形ではなくてもPRになる。</li> </ul> <p>(平賀委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市町の消防や消防学校からの依頼で、分娩管理の新生児心肺蘇生法など非常に専門的なところを教えに行かれたのは大変良い。</li> </ul>	